今日は、皆さんにお話ししたいことが二つあります。

一つ目は、少し残念に思っていることです。

清掃時間にきちんと掃除ができない人がいると聞きました。

八高の校訓「五綱領」の一つに「奉仕」というのがありますが、

以前は「清掃」でした。学校の美化だけでなく、もっと広い意味で奉仕の精神を高めようと、昭和３４年に修正されたようです。

奉仕の精神は、人から強要されるものではありません。きれいにすることで、清々しい気分になれます。一人一人が分担箇所の清掃を全うすることで、学校全体の衛生や安全に貢献できるほか、皆が気持ちよく使えることにつながります。

人が見ていないときにこそ、その人間の本性が現れると言います。人が見ていないから掃除をサボる、誰か分からないからSNSで悪口を書き込む。そんな自分を卑怯だと恥じる、自分の弱さに負けない八高生であってほしいと思っています。

二つ目は、打って変わって、さすがと思わせる、八高生の強さを感じた話です。県総体、今年も、各部が健闘しましたが、今から私が話す強さは、試合の勝ち負けではありません。

その県総体が終わった翌日、ある高校の校長先生から、直々に、謝罪の電話がありました。

　その高校は、本校と対戦して負けた学校でした。試合に負けた後、本校のチームを、乱暴な言葉で罵ったそうです。

八高生の偉かったところは、その罵声に対して、過剰に反応することをしませんでした。全員が静かにその場を後にし、大ごとになることはありませんでした。

もし、同じ土俵に乗って言い返していたら、さらに互いの関係性が悪化していたことと思います。あらためて、本校のチームの冷静で賢明な対応に人間性の高さを感じた次第です。

　それからしばらくして、メジャーリーグの試合での報復行為がニュースになりました。デッドボールを受けたチームが、その仕返しに、相手バッターに対し、わざとデッドボールをお見舞いしたのではないかといったことが取り上げられていました。その標的となったのが、ドジャースの大谷翔平選手です。

大谷選手は、150キロを超えるスピードボールを、２度に渡ってぶつけられました。硬式野球のボールに触ったことがある人は分かると思いますが、一つ間違えたら野球生命にも関わる大怪我につながります。

さすがに、怒ったチームメイトが、我慢できずベンチを飛び出そうとしたところを、大谷選手は、ベンチに向かって、大丈夫だから出てくるなと合図を送り、乱闘を阻止しました。

　プロ野球の世界では、やられたらやり返すという、暗黙のルールがあると言います。やり返さなかったら、相手になめられると考えるようです。大谷選手は、これに一石を投じました。

　常にやり返していたら、いつまでも遺恨が残るのは、目に見えています。このような冷静な対応を目にしたとき、ふと先の県総体での八高チームの対応が思い浮かびました。

現在、世界各地で紛争が起こっています。宗教や文化の違い、領土・資源の奪い合いなど理由は様々ですが、争いによる犠牲者はいつも罪のない子どもたちです。

相手が先に手を出したから、倍にして返さないと気がすまないなど、同じような理由で争いを繰り返している、今の世界の現状は、どう見ても利口だとは思えません。

SDGsの１６番目の目標に「平和と公正をすべての人に」とありますが、大谷選手や八高生の精神が、世界に広まるといいのになと思っています。

おわりになりますが、明日からいよいよ夏季休業となります。３年生にとっては、将来への本気度が試される時期です。１・２年生にとっては、普段できないことに挑戦できる時期ではないかと思います。

この夏の時間をどう使うかで、差がつくかと思いますので、将来を見据えて、有意義な時間の使い方をしてください。

それでは、皆さん一人一人の更なる成長を期待し、1学期終業式のことばとします。